

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	佐藤 光顕	学校名	山形県 天童市立津山小学校
担当教科等	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	6年 1組（14名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年 11月 ～ 12月（10時間）		

【実践概要】

1. 単元(活動)名：「持続可能な社会」を実現するために何ができるのかを考え、これからの生き方を考えよう。	
2. 単元目標 単元目標：「持続性」という視点から「ザンビアや他の国々の文化や習慣、豊かさや抱える課題」について考えることを通して、「故郷への愛情」「人の価値観の多様性」「地球規模での取り組み」という視点で、これからの自分の生き方について考えを持つ。 関連する学習指導要領上の目標：探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。	
3. 単元の評価規準	①知識及び技能 国同士、環境や社会情勢、文化などが違うことや、よりよい社会を目指した取り組みが行われていることを知る。
	②思考力、判断力、表現力等 学習したことをもとに、よりよい社会を創っていく一人として、自分に何ができるのか考え整理し、表現している。
	③主体的に学習に取り組む態度 国際社会の一員としての役割について学んだことを、これからの社会に生かそうとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>小学校生活最後の年となる6年生が、今の自分はどんな夢を持ち、どのように社会に関わっていくのか、自分なりの思いや考え、願いを持って、卒業してほしいと思った。本単元で、自分の住む地域や世界の国々には、それぞれが持つ良さや抱えている課題があり、それらは多様であること、そしてよりよい社会に向けて、それぞれの地域で取り組んでいることがあるということを理解することで、自分自身もよりよい社会を創っていく一員であることに気づき、自分には何ができるのか考えさせるきっかけになると思い、本単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>本単元では、アフリカの「ザンビア」を材にして学習を展開するようにする。ザンビアと日本を比較することで、児童にとって新たな見方に気付かせることができると思う。開発途上国のザンビア特有の文化を体験したり、現地の資料に触れたりすることで、「貧困」という偏った見方を変えることにつながり、互いに尊重し合う態度を育むことができると思う。また、ザンビアが抱える課題や解決するための取り組みを調べたり考えたりすることを通して、自分の地域でも同じように課題があり、解決するための取り組みをしていることに気づき、自分事として何ができるのかについて考えることができると思う。</p>

【児童／生徒観】

本学級の児童は、学習に対して意欲的で何事にも前向きに挑戦しようとする。授業では一人一人が自分の考えを持つことができる。その一方で、自分の考えを押し通そうとしてしまい、トラブルになってしまうことがあり、相手の思いや考えを大切にすることに課題があると感じる。また、少人数のクラスであるため、自分に自信がなく、全校生の前に立って表現することに抵抗があると感じている。本単元では、児童がこれまで知らなかったザンビアの人々の暮らしや生き方に触れることで、ザンビアと自分をつなぎ、相手の気持ちに寄り添う態度を養いたい。また、自分の住んでいる地域でもザンビアでも、どこに暮らしていても、自分の置かれた状況の中で、自分らしく生きていくことが大切であるということに気付かせ、将来を力強く生きていけるように自信を持たせたいと思う。

【教材観】

児童が想像しにくいザンビアを題材とすることで、新たな見方や価値に触れることができる。開発教育の手法を適宜取り入れることで、児童が体験的に世界の現状について知り、課題を自分事として捉えることができるようになると思う。多様性、相互性といった視点からザンビアを見つめ直し、貧困という偏った見方を批判的に捉え直すとともに、ザンビアの人々の暮らしや生き方に触れることで、つながりを尊重する態度を育てていきたい。

【指導観】

本学級の児童は総合的な学習の時間で、読書活動に取り組んできた。児童は、本の持つ力として、「思い出や物語を長く残すことができる」ということに気付いた。1学期は、自分達で思い出の写真を撮り、その写真を利用して本作りに取り組んだ。本校は今年度、創立150周年を迎えた。児童は、自分達が過ごしてきた津山の今の姿を写真に撮って、写真集の形で残しておくことにした。作成する中で地域の方々の話をお聞きし、自分達にも地域の方々にも「生まれ育った地域に対する愛情がある」ということに気付いた。同時に、人口減少や高齢化などの地域が抱える課題もあることに気付いた。「これからも自分のいる地域がよりよい場所として続いていくためにはどうしたらよいのか」という問いに迫っていた。市役所の方から、地域の課題は様々であることや課題解決に向けて取り組んでいることを知り、世界の現状はどうなのかを調べたり考えたりすることにした。

5. 単元計画（全10時間）

時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	・総合的な学習の時間で学んだことをふり返り、「持続性」について考え、今後の見通しを持たせる。	・これまで学んできたことから、よりよい地域にするためには、何らかの取り組みが必要であることに気付く。 ・どんな取り組みをしているのか予想する。 ・自分の地域だけが課題とそれに対する取り組みをしているのか考え、他の地域でも行っていることを考える。	
2	・「持続性」という視点で、津山から、天童市に見方を広げ、魅力と課題を出し合う。	・天童市の魅力を出し合う。 ・分類分けをし、天童市の強みと課題を考える。 ・天童市がよりよい町になっていくために必要な要素を出し合う。	

3	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市にとって、よりよい状態とは、どんな状態なのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAR 教材「豊さと開発」から、「豊かさとは何か」を考える。 ・それぞれの思う豊さについて話し合い、よりよい天童市の姿を共有することで、単元の終末で考える「自分には何ができるのか考える」ことの思考の土台となる。 	DEAR 教材「豊かさと開発」
4	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市の現状と取り組みの様子について、天童市役所の方からお話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー（天童市役所の方）のお話を聞く。 ・現状と取り組みについて聞き、自分達が総合的な学習の時間で知ったことや取り組んだことが、市の取り組みと共通点等について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市役所の方 ・天童市の人口変動の様子のグラフ ・市作成のガイドマップ
5	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市の課題やそれに対する取り組みについて、現状は世界でも同じであることに気付かせ、世界の現状について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市の課題と取り組みは、他の場所でも同じことが言えるのかを考え、課題を自分事にする。 ・アイスブレイクとして、世界の知っている国を付箋に書き、世界地図に貼っていく。アフリカに少ないことに気づき、理由を考える。 ・DEAR 教材「もしも世界が 100 人の村だったら」を活用し、「年齢別人口の割合」と「人口密度」について体験する。 	DEAR 教材「もしも世界が 100 人の村だったら」
6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の現状について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAR 教材「もしも世界が 100 人の村だったら」を活用し、「CO2 排出量と人口」「文字が読めないこと」「富の分配」を体験する。 	・DEAR 教材「もしも世界が 100 人の村だったら」
8 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアの人たちの様子から幸せとは何かを考え、より幸せになるためにできることは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の幸せについて出し合う。 ・ザンビアの人たちの良さを写真で伝え、自分達との共通点に気づく。 ・班ごとに写真を見合い、課題も多くあることに気付く。 ・自分達に何ができるのかを考え、出し合う。 	・自作資料
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアの良さを体験し、世界と自分とのつながりをより感じさせることで、互いの国でよりよい状態を目指して生きるために、自分達のできることを、自分事として捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアのコーヒーを飲む。 ・ザンビアの民族衣装やものに触れる。 ・海外研修でのインタビュー動画を使用し、「どんな状況にいても、幸せを感じることが出来る」ことについて、クイズを交えながら知り、改めて自分の幸せについて考える。 ・自分には何ができるのか考える。 	・自作資料
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることを考え、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや考えたことから、自分の将来の夢や、自分像を想起しながら、これから生きていく上でよりよい社会のためにできることを考え、まとめる。 	

<p>6. 本時の展開（8時間目）</p> <p>本時のねらい：自分とザンビアとの関わりに気づき、ザンビアの課題に対して何ができるのか、どうすることでより幸せに生きていけるのかを考えることができる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<p>導入</p> <p>(10分)</p>	<p>①担任の最近幸せを感じた話から、自分にとっての幸せのイメージを持たせる。 幸せエピソードを聞き合い、似ているものごとにカテゴライズして、幸せの要素の一般化を図る。 より幸せに生きていくために何ができるのか考えよう。</p> <p>②ザンビアで感じた「幸せ」の写真を見合い、ザンビアと自分との関わりを持たせる。 「食」おいしいものがたくさんある。 「学校」みんなで楽しく学び、発表をしている。 「女性」おしゃれをしている。 日本と同じように幸せに生きている。</p>	<p>□ザンビアの写真を提示し、自分との関わりを持たせやすくするために、写真ごとの体験エピソードを説明したり、何の写真かをたずねたりして、興味を持たせるようにする。</p>	   
<p>展開</p> <p>(25分)</p>	<p>③グループごとに4枚の写真から「いいな」と「おかしいな」と思うことを画用紙に書き出し、共有する。 「いいな」では、日本と同じ要素が出てくる。 「おかしいな」では、インフラ、ゴミ問題、貧困、社会規則、などが出てくるような写真を使用する。</p> <p>④この現状の中で自分がザンビアの児童だとしたら、より幸せになっていくために、どんなことを望むのか、一言で書く。 ・まずは、ちゃんとした学校をつくってほしい！ ・政府で社会のルールをつくってほしい！ ・ゴミをちゃんと処分できるようなゴミ処理場をつくってほしい！ ・ちゃんと仕事できるように勉強したい！</p>	<p>□「いいな」と「おかしいな」の意見が活発になる交流になるように、あらかじめグループごとに配る写真を決めておき、見る視点を明確にして、話し合えるようにする。</p> <p>□学習プリントを用意し、ザンビアでの課題を自分事として捉えられるように、ザンビアの子どもになりきって、意見を出せるようにする。</p>	
<p>まとめ</p> <p>(10分)</p>	<p>⑤ザンビアの人達がより幸せに生きていくために、自分に何ができるのかグループで話し合う。 ・募金をすればいい。 ・何もできないのではないか。 ・まずは、こうして現状について理解することが大切だと思う。</p> <p>⑥本時の学習を振り返る。 今日、考えたり思ったりしたことをふり返りましょう。</p>		
<p>7. 本時の振り返り</p> <p>日本とザンビアって違う国だと思っていたけど、同じようなところがあって、関わりを持つことができた。幸せに生きていくためには、いろいろな国の現状をまずは知ることが大切だと思った。何ができるのかは分からなかったけど、できることをこれからも考えていきたい。</p>			
<p>8. 学習方法及び外部との連携</p> <p>学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を行い、常に友達と意見の交流を促すようにした。 ・ホワイトボードミーティング®の手法を用いて、一人一人が気軽に自分の意見を出しやすい雰囲気作りに努めた。 <p>外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天童市役所の方をゲストティーチャーとして、講話をしていただいた。 			
<p>9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修で同行した方々からの助言をいただいた。 			

【自己評価】

<p>10. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ自分達がアフリカのザンビアの現状を知る必要があるのかという、児童の「必要感」を持たせるために、思考の流れを考え、単元を構成する点が苦勞した。 ・自分達が学んだ津山地域や天童市の取り組みと世界の現状から取り組んでいることを、自分事として捉えることに難しさを感じた。 ・授業一時間での教材、写真、学習方法などの選定に課題を感じた。写真一つで、何を児童に考えさせたいのか、より明確にしておく必要があると感じた。
<p>11. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より体験的な学びを取り入れる必要があると感じた。今回は、6年生での授業実践だったが、高学年でも、世界の現状を自分事に捉え自分に何ができるのかを考えるのは、いかに自分と世界にあるつながりのイメージを持てるかということが大切だと感じた。そのためにも、体験的に学びを進める必要があると感じた。 ・本時では、まだまだ児童のザンビアが「貧しい国」「日本より下」という見方があることに気付かされた。そのため、本時に入る前にザンビアの文化や良さにしっかりと触れておく必要があると感じた。
<p>12. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で様々な手法や資料を用いて児童に授業実践を行うことで、児童の世界の人々への偏った見方を変えるきっかけにすることができた。国際社会では、文化や環境が違うことは当たり前であり、経済状況や、開発には差があることも理解させることができた。その中で、それぞれの国が誇りを持ち、より豊かな暮らしをしていくために、幸せを見出し、生きていることに気付くことができた。 ・自分のキャリア（将来の夢）に合わせて、自分がこれからどんな生き方をしていくのか考える動機にもなった。
<p>13. 学びの軌跡 (児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>A児のふり返り</p> <p>A児は学習に意欲的で、地域の課題について考えた際にも「どうしたらいいんだろう」と口に出している姿があった。しかし、「天童市が何をするか」であり、自分に何ができるかではなかった。自分の考えを曲げることができず、友達とトラブルになることもある。物事に対する見方が偏っており、アフリカ＝貧困という見方もあった。そういった見方の変容が見られることを期待し、A児の柔軟性を成長させたい。</p> <div data-bbox="403 1444 1436 1803" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>今日、気付いた事、疑問に思ったことなどを書きましょう。</p> <p>天童でたくさん問題点があるけど、「そのためになにもするの？」 といわれたらでいいよ</p> <p>そして「畑をわき」「子どもをたくさんうむ」などたいおうはさまざま あるけどするとなるとおもしろいね</p> </div> <p>天童市の課題解決について考えた際のふり返り。天童市での課題について考えている様子はいかがだが、何をやるかということについて、人ごとになってしまい、考えが浮かばないことが分かる。</p>

今日の授業で考えたこと、思ったこと

日本は人口減少や、しょうじょうれいがあるけど、日本のなかみとは反対にアジアの人口はとて多くておどろいた
同じアジアでもおきていることがちがうことをしてなにかちががあるのかと考えた。
⇒国がすすんでいるかどうか(インターネット、文化)
こうきやその国の文化やとくちょうなど人にきょうみをもたせるものがあるか...など

第5時のふり返り。世界の現状を知る授業を行った。自分達が知った津山の現状や天童市の現状と、世界の現状につながりがあることに気づき、課題を自分事として考えている。また、世界の現状について興味を持つことができたと感じる。

今日の授業で考えたこと、思ったこと

2番の窓かにひかれました。AとEにそれだけの差がありながらも、世界はかわらないことにおどろきとかなしみがあった。
自分がもしEやDだ。たどきかそうじうできない毎
自分はとてめくまれた国にすんでいると実感した。

世界の現状を知る授業を、体験的に学んでいくことを通して、驚きや悲しみを実感しながら、知識を蓄えていく様子うかがえる。「自分がもし～」と、自分に置き換えて考える事ができている。しかし、まだ日本が恵まれている＝世界には恵まれていない国があるという偏った見方もあることが分かる。

今日の授業で考えたこと、思ったこと

私の中のザンビアとリアルなザンビアはちがかった
食事も日本とたいにかわらず意味はちがくでもえがおか
たぐみあた
びんぼうと思っていたけど同じところも多々あった

本時のふり返り。A児自身の「幸せ」のイメージを持ってザンビア人の幸せを見つける活動を取り入れたことで、これまでのイメージとの変容があったように見える。しかし、授業内での発言から、まだ世界とのつながりを実感しているとは言えない様子もあった。また、自分には何ができるかを考える事は難しかった。(教師自身の反省でもある)

今日の授業で考えたこと、思ったこと

どの資料をみてもみんなたのしそうでおどろいた
とくに村のおどりがアフリケーターをみているとわらって
いるしみんながたのしんでいて日本とかわらないしあわせが
あった。おどろいたころは、学校のひとたちが「あわせなら
手をたたこうをうたっていたこと。たくさんけんしょうしてあそび
くれたことがうれしくなった。

ザンビアのイメージ（最後）

みんな(日本)と同じあわせ持っている
日本でおどろきあそぶことでもザンビアの人はあわせにかんじている
=日本とあわせのかんがいはかわらない

第9時のふり返り。本時の反省を生かし、A児がザンビアの良さを感じることで、見方の変容が見られるようにしたいと考えた。教師海外研修でのインタビューを視聴し、どんな状況でも幸せを感じて生きている人達の姿、歌や踊りで楽しんでいる姿などを映像で見て、見方の変容が見られたことが分かる。また、日本の音楽に触れているザンビア人の様子を見て、嬉しさを感じられたことから世界とのつながりを感じることができたことが分かった。

A児は将来の夢がまだ明確ではないが、今後の生き方について「自分に何ができるかは分からないが、まずは現状を理解していくことが大切である」とまとめていた。

14. 授業者による 自由記述

児童へ国際理解教育を伝えていくために、自分自身が現状を知る必要があるという思いから教師海外研修に参加した。ザンビアに行き、気候や匂いなど五感を通じて感じられる事がたくさんあった。ゴミ問題や教育の問題など、これまでの知識と比較して考える経験もできた。しかし、それを目の前の児童にどう伝えていくのかということがとても難しいことが分かった。ザンビアで考えたことを児童に考えさせる難しさを痛感した。また、国際理解にとどまらず、開発教育として、「自分に何ができるのか」を小学生に考えさせることがとても難しいと感じた。発達段階に応じて、何を考えさせたいのか、何に気付かせたいのかを明確にすることで、少しずつ児童は考え、学んでいくことができるため、今後もそのような授業づくりを進めていきたいと思う。

参考資料：

『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』

『豊かさと開発』

特定非営利活動法人 開発教育協会